

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
はいはい（放課後等デイサービス）		2025年 6月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		1ホールでの支援だが、間仕切りを作らず、広い活動スペースを確保している。	間仕切りがない為、区別がつけにくい児童には理解が難しい場面もあるので、低い間仕切りなどで区別しやすい環境をつくる
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		指導員に看護師経験者を配置している。	現在は配置数が適切であるが、急な休みなどに対応できるように人員の確保を検討中
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		間仕切りを作らず、全体を見渡せる構造となっている。各部屋においても、イラストで児童に分かりやすくしている。入口前もスロープになっており、車いすの出入りも可能となっている。	間仕切りが無いので、見渡ししやすい反面、区別がつきにくい事もあるので、低い間仕切りなどで区別しやすい環境づくりも必要
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		受け入れ前、各活動後、終業前に清掃を行っている。また、定期的な換気を行い、感染予防も図っている。	湿気がこもりやすいので、雨天時や梅雨時期に除湿器などでの対応が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パニックや児童間でトラブルがあった際に使用できる個室を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日、終礼時に申し送りを行い、意見交換を行っている。児童の支援記録にも、課題や問題点を記載し、早期発見・早期対応・周知徹底を図っている。	職員により、言葉や文章の受け取り方に違いがある事もあるので、専門用語や独特の言い回しではなく、どの職員にも伝わりやすい言葉選びの工夫が必要
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者会等はないが、送迎時や担当者会議時に個別に聞き取りの時間を設けている。	定期的にアンケートを実施し、要望や評価を確認する機会を検討中
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議や毎日の申し送りにて、意見を出してもらっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		規模が大きくなってきた際は、第三者評価を実施していく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に一回、内部研修会を実施している。外部の研修会や資格講習会の受講機会も必要に応じて確保している。（国家資格試験など以外の受講料は、事業所負担）	今後は、外部講師を招くなどの専門性の高い研修会を実施していく必要がある。
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに掲載し、誰でも閲覧できるようにしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		担当者会議等でアセスメント・モニタリングを行う時間を設けてもらい、ニーズや課題の把握に努めている。	あまりニーズや課題に変化がない事も多いので、日頃の様子などから提案し、支援計画に結びつける事も必要
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者がベースを作成し、職員に修正・追加・削除箇所を聞き取りしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画をいつでも確認できるように個別のファイルに挟んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		自由遊びの中で課題を見つけ、その都度職員間で意見交換をして、活動に取り入れている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同じ活動の中に変化をつけるようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		基本的には役割分担するのではなく、全員で対応する事を心掛けている。	強度行動障害児が利用する際には、担当を配置する必要がある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援記録に記載している事を基に、振り返りと翌日の課題を話している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録に、課題・問題点・改善点を記入し、次回の支援へつなげるようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		3ヶ月～6ヶ月毎、または状況・状態に変化があった際に、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			地域交流が少ないので、地域行事などに積極的に参加する
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもの意思決定を優先し、「なぜその選択をしたのか？」を聞くようにしている。場面にそぐわない場合は、助言を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校が発行する予定表などで行事や下校時間を把握している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		担当者会議等で情報共有を行い、相互理解を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			※現時点で、学校を卒業した児童がいない	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		児童発達支援センターとの関わりが少ないので、交流を深め、連携を図れる体制づくりを進めていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		近隣の公園等で活動する際に、地域の子どもさんと遊んでいる。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		情報提供は行えているが、家族が参加する機会がないので、今後は増やしていく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時やモニタリング時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		担当者会議等で意向を確認し、意思の尊重・こどもの利益優先を考慮している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談に関しては、随時受付を行っている。 また、支援に関するアドバイスや提案を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者同士の交流機会がない。 今後は、長期休みなどの時期を活用して、交流機会を設ける事を検討中
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		大きな相談や申し入れはないが、予定変更などには迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		LINEを活用して、活動の様子などを写真付きで個別に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもに対しては、絵カードや理解しやすい言葉を選んでいる。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民を招待する行事はまだ行っていないが、近隣住民が声を掛けて頂いたり、差し入れを持って来てくれたりしている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		今年度も訓練を予定している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		今年度も訓練を予定している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始前に聞き取りを行い、利用後も随時確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		定期健診などでアレルギーについて診断をもらうように家族にお願いをしている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが出た日の終礼時に報告し、対応策を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			